

平成27年度事業報告

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

1. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果

情報提供と相談業務を当法人の中心事業と位置づけ、東日本大震災による「避難者を支える活動」を行った。

【 情報提供・相談業務事業 】 ※タケダ×赤い羽根共同募金広域避難者支援プログラム

1. 相談業務事業

- ・常設の相談窓口を開設し、いつでも相談を受けられる体制を整えることができた。月、水、金の10時～15時は、対面相談を行い、プラスしてメールや電話での相談対応を行うことができた。相談の内容によっては地域の保健師や、連携先の専門家や避難者支援団体を紹介し、中間に入りコーディネーター役を担った。相談件数については、下記表あり。

月	電話	メール	来所	訪問	交流会、他	合計
4月	1	0	2	0	0	3
5月	0	0	2	0	2	4
6月	0	0	3	12	0	15
7月	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	4	0	0	4
9月	2	1	2	0	0	5
10月	0	0	5	0	1	6
11月	2	0	3	3	0	8
12月	2	0	10	18	3	33
1月	1	0	2	0	0	3
2月	2	1	2	35	0	40
3月	1	0	2	0	5	8
合計	11	2	37	68	11	129

- ・相談員のためのスキルアップ研修を岡山県の避難者支援団体と共に開催することができた。日常的に避難者支援に係っているメンバーがクライシスカウンセリングについて学び、愛媛から3名、香川から3名、高知から1名、合計7名が参加した。これからさらに困窮していくと予測される避難者への支援、その中でも心のケアについて学ぶことができた。また、支援の現場で実際困っていることなども共有でき、事例のケース検討も行い、今後の支援現場について考えるよい研修となった。

研修会詳細 日時：2月6日(土)10時～15時

場所：岡西公民館(岡山市下伊福西町1番48号 086-253-7581)

内容：「当事者(ピアサポーター)と共に歩むこれからの支援とは」

講演者：一般社団法人 日本ソーシャルセラピストアカデミー 志村友理 様

2. 情報提供事業

- ・ 情報受発信の本拠地として、機関誌は年に4回発行し、四国内の避難者約100世帯に郵送し、ホームページ、フェイスブックは随時更新を行った。また、避難者の皆さんのためのメールアドレス登録システムを運用し、16名の避難者が現在登録している。
- ・ 成果としては、えひめ311設立当初から情報受発信を継続して担うことで、四国の避難者支援といえば「えひめ311」というふうに、避難者、関係機関双方に浸透してきている。その結果、避難者と支援者、地域の相互のやりとりを行うことがスムーズとなり、避難者を見守る環境整備を進めやすくなった。

・ ホームページ <http://ehime311.official.jp/>



・ フェイスブック <https://www.facebook.com/Ehime311/> ファン数 323 リーチ数 6328



【被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業】

1. お遍路カフェで四国巡り事業 ※タケダ×赤い羽根共同募金広域避難者支援プログラム

- ・四国各地で実施される交流会に参加させていただいた。避難者同志はもちろんだが、地元住民の方々にも参加協力いただくことで、新たな交流が生まれ、避難者としての視野が広がる時間となった。また、避難者一人一人が役割を持つことで、やりがい、生きがい、自分にも居場所があるのだと感じてもらえるきっかけ作りができた。四国内で合わせて5回のお遍路カフェを行うことができた。特に② 愛媛県久万高原町森林ボランティア交流会では、いつも避難者として何かを受ける側だったが、視点を変え、避難者みんなで地域のボランティア活動に参加した。自分が役に立つこと、やりがいなどを感じてもらえる交流会となった。
 - ・成果としては、昨年度より回数は減らしたものの、今までつながりのなかった避難者の参加などもあり、支援の輪が広がりつつあると感じている。また、四国合同で交流会を行うことで、四国は一つ、お互い助け合おうという思いが拡がり、同窓会的な太いつながりがあちらこちらでみることができた。
- このつながりこそが、避難者の明日への一歩になるのではないかと期待している。

・実施状況

- ① 9月11日 愛媛県松山市 震災から4年6ヶ月追悼式 参加者14名（避難者9名、その他5名）
- ② 10月3日 愛媛県久万高原町 森林ボランティア交流会 参加者111名（避難者11名、その他約100名）
- ③ 10月17日 愛媛県松山市 宮城県避難者交流会 参加者13名（避難者4名、その他約9名）
- ④ 11月15日 高知県四万十町 お別れ会 参加者14名（避難者6名、その他8名）
- ⑤ 2月7日 愛媛県松山市 みかんがり交流会 参加者35名（避難者5名、その他30名）
- ⑥ 3月5日 香川県まんのう町 四国避難者交流会 参加者 避難者のみ25名
- ⑦ 3月6日 香川県高松市 四国避難者交流会 参加者44名（避難者27名、その他16名）
- ⑧ 3月11日 愛媛県松山市 311追悼式交流会 参加者34名（避難者32名、その他2名）

2. 避難者世帯へのおせったい訪問事業 ※タケダ×赤い羽根共同募金広域避難者支援プログラム

- ・米やミカンなど地元四国の農産物を携えた見守り訪問を各県の行政との協力体制のもと四国内避難者を対象とし、愛媛73世帯、香川20世帯、徳島14世帯、高知15世帯、合計122世帯の個別訪問を行った。生活環境が厳しい方、体調が思わしくない方には、3巡と限らず、必要に応じてフォローアップを行った。実施状況は、下記表の通り。
- ・お渡しする農産物は、愛媛県内の農業者（堀内さん、土居さん）に提供していただいたり、開放していただいた樹園地でみかんを収穫して用意した。また、このみかんは愛媛県内の避難者と地域住民と一緒に収穫を行い、地域とのつながり作りのきっかけとなった。
- ・成果としては、昨年度より回数を増やし、丁寧に行ったことで、避難者との信頼関係を構築することができた。家を訪問するというデリケートな事業で不安もあったが、続けたことで得た信頼関係を今後も大事にしていきたい。この信頼関係が根元にあることで、避難者の抱える問題に触れる機会も増え、いくつか解決できた事柄もあった。1人で抱え込まず、いつでも相談してくださいと声をかけることで、避難者の最大の敵である孤立を軽減できたのではないかと思います。

・実施状況

訪問形態	実施期間	愛媛	香川	高知	徳島	合計	配布物
第1回おせったい訪問	6月8日～6月17日	13	9	7	5	34	みかん

フォローアップ	10月13日	1	0	0	0	1	
フォローアップ	11月11日	1	0	0	0	1	
第2回おせたい訪問	11月29日～12月19日	13	5	4	5	27	米
フォローアップ	12月10日	9	0	0	0	9	
フォローアップ	12月21日	10	0	0	0	10	
フォローアップ	1月20日	3	0	0	0	3	
第3回おせたい訪問	2月1日～3月12日	18	6	4	4	32	みかん
フォローアップ	2月4日	3	0	0	0	3	
フォローアップ	2月22日	2	0	0	0	2	
	合計	73	20	15	14	122	

3. 四国内避難者サポートニーズ調査

- ・昨年度に引き続き、四国内避難者のサポートニーズ調査も行った。この調査は必要な支援ニーズの抽出であり、おせたい訪問に伺う際の参考及び当団体の事業内容を振り返る素材となっている。有効回答数は41（世帯）で第1回調査の64（世帯）よりも少なくなっているが、41世帯の中には今年新規で回答した方も含まれている。調査結果については、松田曜子氏（関西学院大学災害復興制度研究所）に分析を依頼した。調査結果については、別紙の通り。

4. 健康診断事業

- ・避難者からの要望が多かった甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力の下、実施した。合計で23人（新規4人）の避難者・移住者が健康診断を受診し、当法人は、受診日の案内、受付窓口を担当した。

5. 四国内避難者支援団体、関係機関等のネットワーク事業

※福島県県外避難者支援運営業務（JCNより委託）

※タケダ×赤い羽根共同募金広域避難者支援プログラム

- ・四国避難者支援連絡会を軸に避難者支援団体同士の情報共有の場、学びの場、共感の場とすることを目指し、年に3回開催することができた。また、講師を呼んでの勉強会も開催することができた。
- ・愛媛県内の情報交換会も昨年度から引き続き開催でき、愛媛県内の避難者支援の意識を保つことができた。この会を繰り返し行ったことで、行政や各支援団体と強く連携体制を持つことができ、共に、今後の避難者支援を考えることが出来始めた。
- ・成果としては、四国内の支援団体が集まり、連携する意味の共有ができた。どの団体も色々と問題があり、団体自身の運営上での悩みなども話し合うことが出来た。この連携こそが、長期にわたり安定的な支援を届けるための団体運営に欠かせないことと実感し、団体同士が助け合う意味が分かった年度となった。

・実施状況

会議名	日時	会場	議題	参加人数 (協力団体)

第1回四国避難者支援連絡会	9月12日	香川県	香川県の今年度の取り組み 28年度の四国内避難者交流会	5名 (福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト)
②第2回四国避難者支援連絡会	10月1日	高知県	高知県の今年度の取り組み 保養プログラムの共有	4名 (えんじょいんと香美)
③第3回四国避難者支援フォーラム	3月6日	香川県	四国避難者サポートニーズ調査の結果報告 今後の四国内避難者支援について	30名 (福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト、えんじょいんと香美)
④第1回愛媛県内情報交換会	6月17日	愛媛県	それぞれの今年度の事業計画の共有 全国的な動きについて 他	10名 (愛媛県庁、松山市役所、愛媛県社協、NPOサポートセンター、NPO団体)
⑤第2回愛媛県内情報交換会	10月17日	愛媛県	愛媛県内の避難者支援の状況報告 住宅支援について 他	9名 (宮城県庁、NPOサポートセンター、NPO団体)
⑥第3回愛媛県内情報交換会	2月25日	愛媛県	次年度の助成金事業について 住宅支援について 他	3名 (愛媛県庁)

【 自立支援事業 】

- ・自立支援事業としては、避難者、避難を考えている人々に求人情報の提供・支援を継続した。

(2) 今後の課題

【 情報提供・相談業務事業 】

1. 情報提供事業

- ・ホームページの管理の中、新着情報などのイベント告知、支援情報の更新は行っていたが、活動を行った後の報告ができていなかった。ホームページの更新が難しいのならば、ブログを細かに投稿し、写真などを使い活動報告が見えるようにしていきたい。また、担当者を配置することも必要である。
- ・現在の避難者メール登録数は16人ほどで少ない。再度、ちらしを配布し、今後、登録数を増やしていければと考えている。28年度目標、30人。

2. 相談業務事業

- ・2度目の調査で、私たちのような避難者支援団体の存在があるだけで、安心されている避難者の方々がいることが分かってきた。今は、困り度が低いけれど、困り度が高まって来た時に、思い出してくれるような存在になっておかなければならないと実感した。

- ・相談が来た時にすぐに対応できる体制をいつでもとっておくことも必要、そのためにも日頃からあらゆるジャンルの支援者とつながっておく必要がある。現況では、支援者とのつながりが少しずつ、できてきているものの、まだまだ弱い部分がある。課題の1つである。

【 被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業 】

1. お遍路カフェで四国巡り事業

- ・今年度は、回数を減らし行った。交流会自体のニーズはあるが、それを今後どのような目的、形態で実施すべきかは模索中である。大人数を集める交流会ではなく、小規模で気軽に行けるような交流会が求められているのかもしれない。28年度に向け、交流会のスタイルを大幅に変えてみたい。
- ・四国内のあらゆる場所で開催したいと思っていたが、香川・高知県以外では協力者が見つからず、開催に至らなかった。四国4県の支援者同士のネットワークを構築していかなければならない。

2. 避難者世帯へのおせったい訪問事業

- ・一度や二度きりの訪問では、相手をさらに寂しい思いにさせてしまい、二次被害を及ぼすことも考えられることである。つまり、継続的かつ定期的な個別訪問が必要である。また、心や体に不調が出てしまってからでは遅いので、個別訪問を通して、不調が出る前の早期発見、予防の重要性を伝えたいが、そこまでできていない。
- ・避難者一人一人と接するなか、四国内の避難者の方々へ、今まで十分な支援を届けることができていないと思うと自分たちの力不足を感じた。一番しんどいときに四国内避難者へ寄り添うことが充分出来なかったのでは・・・と感じる場面もあった。

3. 四国内避難者サポートニーズ調査

- ・避難者の不安定な生活状況と精神状態の中で、活動内容は避難者のニーズに合致したものとしなければならない。サポートニーズ調査を2年連続行ってみたが、もう少し答えやすいような質問に変更するなど工夫し訪問でも電話でもメールでも伝わってこない、避難者の声を集めていきたい。それが、今後のえひめ311の活動の道しるべになると思っている。

4. 健康診断事業

- ・避難者・移住者から今後も継続してほしいとの声が大きかった。長期休暇などを利用した健康診断の実施、その後のフォローアップを引き続き行っていきたい。

5. 四国内避難者支援団体、関係機関等のネットワーク事業

- ・支援の切れ間を作らず、避難者の抱える問題に取り組んでいくため、情報交換会を続けていきたいが、震災から5年過ぎ、愛媛県内の支援者の意識も低くなっている。
- ・避難者から相談を受けたときに確実に地域の社会資源につなげることができる体制を整え、官と民の域を越えた連携を強化し、四国内の避難者支援を地域課題の一つとして取り上げていく必要性を感じた。
- ・四国連絡会の連絡調整。他の仕事をしながら支援活動を行っている団体が多いので、調整が難しい。

【 自立支援事業 】

- ・長期避難の中にあるの方々にとっては、必要な支援の一つであるのにもかかわらず、求められている内容となっていない事業である。今後、効果的な事業を考えていかなければならない。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
情報提供・ 相談業務事 業	・情報受発信の本拠地として の機能を置く。 相談窓口開設、対応電話 相談対応 メール相談対応機関誌を 発行メール発信	通年 月・水・金 月・水・金 通年 年に4回通 年	主たる事務所	3名 2名 2名 2名 1名	被災者、避難 者及び関係 者、これから 移住、一時避 難などを考え ている方々	1,993
被災者・避 難者の『命 と尊厳』を 守るための 事業	①交流会事業 石手寺交流会 森林ボランティア交流会 宮城県避難者交流会 お別れ会 みかん狩り交流会 四国避難者交流会 四国避難者交流会 311 追悼式 交流会 種まき祭農園交流会 ②見守り訪問事業 1 巡目 みかん配達 2 巡目 お米配達 3 巡目 みかん配達 ④健康診断実施事業 ⑤四国内避難者支援団体、関 係機関等のネットワーク事業 ・愛媛県内情報交換会 第1回	9月11日 10月3日 10月17日 11月15日 2月7日 3月5日 3月6日 3月11日 3月21日 6月8日～ 10月17日 11月29日～ 12月19日 2月1日～3 月12日 通年 6月17日	松山市 久万高原 松山市 高知県 松山市 香川県 香川県 松山市 古川防災福祉農 園 四国内 四国内 四国内 愛媛生協病院 コムズ	3名 3名 4名 1名 3名 4名 4名 4名 15名 4名 4名 4名 2名 4名	14名 111名 9名 14名 32名 25名 44名 30名 100名 34名 27名 32名 23名 10名	2,578

被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業	第2回	10月17日	ひめぎんホール	4名	9名	227
	第3回	2月25日	事務所	1名	2名	
	・四国避難者連絡会	9月12日	香川県	3名	2名(2団体)	
		10月1日	高知県	1名	3名(2団体)	
	・四国避難者支援フォーラム	3月6日	香川県	4名	30名	
自立支援事業	・求人情報の提供 他	通年	主たる事務所	2名	被災者、避難者	

(4) 写真

○ 森林ボランティア交流会



○ 四国避難者交流会



○ みかんがり交流会



○ 311追悼式 交流会



○ 第1回四国避難者支援連絡会



○ 第3回四国避難者支援フォーラム



④ 第1回愛媛県内情報交換会



⑤ 第2回愛媛県内情報交換会（宮城県避難者相談会）



2. 被災地の復興に向けた活動

（1） 事業の成果

【 被災地への継続的な支援を行うための事業 】

①（保養キャンプ事業）

- ・平成27年度も3月の開催を予定していたが、実施後の参加者アンケートから「海で泳ぎたい。」「少しでも長い期間受け入れてほしい。」と夏休みの開催を願う声が多く集まり、今年度は、3月開催を見合わせ、28年度の夏に開催する計画を立てた。

②（福島への農産物販売事業）

- ・福島を中心とした地域の人々への柑橘やみかんジュースを主とした農産物販売を行った。
- ・1月9日、10日に福島県いわき市南台仮設住宅で開催される双葉町ダルマ市に出店し、地元の方々と交流しながら、愛媛のみかんや農産物の販売を行った。3年連続で、手伝いに行ったことから、仮設住宅の方が覚えていてくれて、声をかけられることもあった。
- ・事務所前で軽トラマーケットを始めることができた。立ち止まる方もおり、えひめ311の広報にもつながった。

（2） 今後の課題

①（保養キャンプ事業）

- ・継続的な活動を目指しているため、実施後の参加者アンケートなどに耳を傾け、ニーズに合ったプログラムを考えていきたい。
- ・安全性や、子ども達がより楽しめるようなプログラムにするため、専門職の方の協力を求めたい。特に自然とふれあう活動では、予期せぬ事象が起こるので、プログラムに参加できる看護師を探す。
- ・開催地を固定化し、地域の方達と共に受け入れる形にしていきたい。
- ・収入が寄付に頼らざるを得ない事業なので、継続していくために、できるだけ費用を抑えたプログラム作りを工夫していく必要がある。どうしても、東北・関東～愛媛間の交通費がかさむため、宿泊費や食費をいかに抑えるか重要である。

②（福島への農産物販売事業）

- ・収益事業の1つなので、担当者を配置し、福島だけでなく、被災地（熊本県）と呼ばれる所の物産などを販売していくことも視野にいれてもよいのではと考えている。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
被災地への継続的な支援を行うための事業	①保養キャンプ事業 ・曹洞宗四国子ども自然ふれあい広場協力	7月22日 ～25日	高知県内	3名	参加者50名	0
	③福島への農産物販売事業 ・双葉ダルマ市出店	通年 1月9日 ～10日	主たる事務所 福島県内 宮城県内	2名 2名	一般市民 愛媛からの参加者9名	0
	④その他 ・いよかんメッセージ	3月		2名	宮城県気仙沼市	0

(4) 写真

○ 曹洞宗四国子ども自然ふれあい広場



○ 福島県双葉ダルマ市



○ 軽トラマーケット



○ いよかんメッセージ



3. これから起こる災害に備える活動

(1) 事業の成果

事務所自体が、避難者だけでなく、愛媛県内の支援者、地域住民、学生などが集まるコミュニティの場となっている。事務所内に来られた方は、1年間で述べ253名。地域の1つの社会資源として認識されてきたような実感がある。例えば、学生などは、地域づくりの取材に訪れたり、東北への訪問について相談にきたりする。地域住民は、地区の防災訓練や自主防災組織の運営についての話し合いをこの場で実施するなどした。

【講演会やワークショップ、展覧会等開催事業】

- ・震災の写真や映像を使い東日本大震災を振り返り、愛媛県でも被害が想定されている南海地震をはじめ起こりうる様々な大規模災害を強く意識し、備える必要性があるということを愛媛県民に認識してもらう活動となった。昨年度に比べ講演会の依頼は増加し、分野も多様である。311というキーワードを元にいろんな角度から伝えていくことは大切であり、愛媛県民に求められている活動であると感じている。
- ・総会と併せ、当団体主催の講演会を開催した。新潟中越地震から10年ということもあり、長岡協働型災害ボランティアセンター センター長の羽賀友信氏を招き、「災害時協働型支援の必要性」というテーマで講演いただき、災害後のまちづくりの経緯などから、新潟の復興の軌跡を学んだ。講演会後に行われたワークショップでは、NPO法人えひめグローバルネットワークの協力いただき、持続可能な地域をつくるための世界共通の目標「SDGs（持続可能な開発目標）」とのつながりについて参加者同士が考える場を設けることができた。

【農産物の生産・加工・販売事業】 ※農のある暮らしづくり事業（農水省交付金事業）

- ・今年度新たな支援者として地域農業者である松本さん、耐震技術認定者・建築士の平岡さんを加え、昨年までの連携を基に高齢者福祉施設の皆さん、障がい者福祉施設の皆さん、その他の就労困難な人たちの社会復帰といった、遊休農地を活用した地域福祉への貢献に取り組んだ。また、愛媛大学学生の農業体験栽培の場としても活躍している。
- ・12月に炊き出し訓練、3月には農園祭などを実施した。地域住民の方々からも多くの来園をいただき、栽培した農作物の収穫や植え付け体験、防災に関する催し（震災記事・写真展、避難者による被災体験講話、松山市消防局による防災訓練体験など）への参加を得られた。地域の方々も農作業や農園運営等に汗を流し、休憩所で笑い合い、労い合う姿は、まさに「つながりのセーフティネット」の一つの形となっている。
- ・活動内容等の詳細は、当事業報告書を参照。（希望者に配布）

(2) 今後の課題

【講演会やワークショップ、展覧会等開催事業】

- ・この事業は、愛媛県民に災害の恐さや備えの大切さを伝えるものであり、震災を経験した当事者たちができる地域貢献でもある。今後も継続していきたい。
- ・自分たちで主催したものは少なく、協力という形が多かった。今後は、積極的に取り組んでいきたい事業の一つである。具体的には、会員の方々と交えた参加型の勉強会やワークショップを継続的に開催し、避難当事者と地域の方々と共に学べる場づくり、関心を持ち学ぼうと思うきっかけ作りに努めていきたい。

【農産物の生産・加工・販売事業】 ※農のある暮らしづくり事業（農水省交付金事業）

- ・一昨年、昨年度と本事業を支援していた、農林水産省の交付金事業は今年度で終了する。今後は、さらなる交流拠点として本農園での取り組みが充実化し、遊休農地利用の一つのモデル的な活動としていくためにも、自立した農園活動・運営が求められる。そのためにも、私たちが一層の手立てはもとより、関係者間の理解とご協力がさらに重要となる。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	事業内容	実施日 時	実施場所	従事者 の人数	受益対象 者の範囲 及び人数	支出額 (千 円)
講演会やワ ークショッ プ、展覧会 等開催 事業	・講演会					0
	東北料理教室	4月26日	松山市清水公民館	1名	一般市民	
	震災体験について	4月30日	愛媛大学	1名	20名	
	えひめ311の活動について	5月1日	NHKラジオ	1名	30名	
	震災体験について	5月18日	愛媛大学	1名	2名	
	平和学講座	5月28日	愛媛大学	1名	15名	
	備前フィールドワーク	6月1日	事務所内	2名	150名	
	防災研修会	6月6日	大洲市南久米公民館	1名	4名	
	羽賀友信氏講演会(総会)	6月7日	愛媛大学	5名	34名	
	震災体験について	6月23日	朝生田ふれあいセンター	1名	50名	
	松山自主防災組織選考委員会	7月4日	松山市消防局	1名	36名	
	松山市人権フェスティバル	7月12日	松山市コミセン	1名	30名多数	
	人権学習会	7月25日	清水公民館9区分館	1名	35名	
	10年教職経験者研修	7月23日	県教育センター	1名	2名	
	人権学習会	7月24日	県立上浮穴高校	1名	200名	
	人権学習会	7月25日	清水公民館9区分館	1名	30名	
	人権啓発講演会	8月4日	久万高原町立入野福祉館	1名	80名	
	ボランティア講座	8月5日	生涯学習センター	1名	4名	
	福祉ボランティアタウンミーティング	8月5日	松山市ボランティアセンター	1名	30名	
	人権学習会	8月11日	市坪ふれあいセンター	1名	30名	
	防災について	8月24日	味生第二児童クラブ	2名	100名	
	人権啓発講演会	9月2日	砥部中央公民館	1名	80名	
	岡山県主催交流会&ワークショップ	9月5日	津山市聚楽園	1名	30名	
	県外避難者について考えよう	9月6日	四日市市総合会館	1名	70名	
	人権学習会 寿会	9月8日	来住分館	1名	30名	
	被災体験について	9月11日	西消防署	1名	8名	
	人権教育推進委員養成講座	9月17日	宇和島市役所	1名	30名	
	人権同和教育指導者養成講座	9月17日	愛南町御荘文化センター	1名	80名	
	人権学習会	10月16日	中島 姫ヶ浜荘	1名	10名	
	砥部福祉フェスタ	10月18日	砥部中央公民館	2名	多数	
	人権学習会	11月21日	南久米分館	1名	30名	
	今治市職員人権・同和問題研修会	12月2日	今治市役所	1名	1500名	
	人権啓発講座	12月8日	南予地方局	1名	50名	

講演会や ワークショップ、 展覧会等 開催事業	広域避難者支援について	12月11日	NHKラジオ	1名	2名	
	人権問題学習会	12月14日	県立吉田高等学校	1名	300名	
	全国被災地交流会円卓会議	1月10日	関西学院会館	1名	80名	
	住民参加による防災研修会	1月16日	アイテム愛媛	1名	100名	
	人権学習会	1月18日	中島 姫ヶ浜荘	1名	10名	
	NPO現役交流会	2月20日	南海放送本町会館	2名	多数	
	東北へ旅行プランニング人 権学習会	2月21日	松山アーバンセンター	1名	30名	
		2月23日	中島 姫ヶ浜荘	1名	10名	
	人権学習会	2月24日	中島 姫ヶ浜荘	1名	10名	
	人権学習講演会	2月26日	和気公民館	1名	50名	
	人権教育協議会新居浜支部社会教 育部部会研修	3月3日	新居浜市役所	1名	35名	
	上島町人権啓発講座	3月9日	せとうち交流館	1名	50名	
	親子で学ぶ防災教室	3月18日	八幡浜松蔭公民館	1名	60名	
	番城校区人権の集い	3月26日	宇和島市立祝森公民館	1名	100名	
	・写真展・パネル展示 防災福祉農園種まき祭	3月21日	古川防災福祉農園	4名	100名	一般市民
	・イベント協力 高齢者まつり	10月30日	松山市大街道	2名	多数	一般市民
	東雲地区防災訓練	11月22日	東雲小学校体育館	1名	200名	
松山市防災・復興支援イベント	3月12日	松山市大街道	2名	多数		

農産物の 生産・加工・販売 事業	・ 広報活動 ホームページ更新	随時	事務所内	1名		2,184
	・ 講座開催 多機能農園について	2月26日	愛媛大学農学部	2名	10名	
	実践のための園芸福祉講座	3月5日	竹中園芸	2名	10名	
	・ 試験圃場の運営 就労の場の提供	7月～3月	古川防災福祉農園	2名	61名	
	生きがいがづくりの場の提供	通年	古川防災福祉農園	2名	50名	
	・ 運営委員会 第5回	7月10日	有光組オフィス	2名	10名	
	第6回	11月5日	コムズ	2名	8名	
	第7回	1月31日	松山市コミセン	2名	9名	
	第8回	3月8日	舞蘭chi	3名	7名	
	・ コンサルティング実施日 第1回	9月28日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
	第2回	10月9日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
	第3回	10月20日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
	第4回	12月24日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
	第5回	1月13日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
	第6回	2月17日	愛媛地域総合研究所	2名	2名	
・ 先進地視察 第1回	9月5～6日	岡山県備前市	2名	3名		
第2回	1月7～12日	福島県内	3名	7名		
・ 農産物販売 和後苑祭	8月22日	和光苑	6名	多数多数		
福島県双葉ダルマ市	1月10日	福島県いわき市南台事	10名	多数		
軽トラマーケット	8月～3月	務所前	1名			
・ イベント 種まき祭	3月21日	古川防災福祉農園	15名	100名		

(4) 写真

○ 総会時の羽賀友信氏による講演会



○ 砥部福祉フェスタ 防災講演会



○ 県外避難者について考えよう みえ



○ 高齢者まつり



○ 種まき祭りの震災パネル展示



○ 松山市防災・復興イベント



○ 多機能福祉農園試験圃場



○ 青空防災教室



【 金額内訳書 】

1. 未収金 2,060,000円

平成28年3月31日 「農」のある暮らしづくり事業 2,060,000円

2. 未払金 15,809円

平成28年3月31日 3月分車両保険料 8,789円

平成28年3月31日 3月分電話代 7,020円